

普及現地情報



発信年月日：令和5年(2023年)7月3日
所属名：大津・南部農産普及課
番号：A23008
部門分類：150(野菜)
発信者名：野菜担当(主：川村、木村)

イチゴ栽培研修会「多収事例と‘みおしずく’実証」の開催

6月15日にイチゴ生産者の収益性向上を目的にして、当課の支援で収量が大幅に増加(6.2t/10a、前年比137%)した事例紹介と、新品種‘みおしずく’の実証結果を周知するイチゴ栽培研修会を開催し33名の参加がありました。研修会では、実証を行った生産者に「なぜ多収を目指しているのか」を熱く語っていただき、参加者から「収量のさらなる増大を目指す普及員の意気込みを感じてられて良かった」とコメントをいただきました。

当課は令和4年10月から令和5年5月にかけて炭酸ガス施用と生育状態に応じた養液管理を軸にした多収技術の支援を行っています。そこで得られた花芽分化時期の葉柄中硝酸イオン濃度を元にした養液管理や環境管理の結果と、生産者の手ごたえについて紹介しました。

‘みおしずく’の実証については、収穫開始時期や収量、時期ごとの糖度について説明し、既存品種以上の収益性があることを理解してもらいました。

最後に、多収技術には市場出荷を組み合わせる必要があります、その市場出荷に適性がある‘みおしずく’と多収技術は共同販売にむけた取組に繋がられるという提案も行い、共同出荷に向けた意識向上を図りました。

今後も多収を目指す方や‘みおしずく’栽培者を中心に継続的な研修会を開催し、管内イチゴ生産者の収益性向上を支援していきます。



実証を行った生産者から多収の成果
についての実感を解説



みおしずく実証について当課職員から説明